

介入と再編 現代医療におけるバロックな身体

山崎吾郎(大阪大学)

1

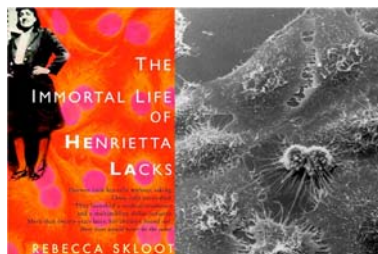
この発表のポイントと主な関心

- 現代医療にみられる身体への介入と再編という主題について
- 論争的な状況へのアプローチの仕方
- 機械のメタファー
- 「存在論」についての整理と若干のコメント
- バロックな秩序と身体論
- 近代医療研究からみた「在来知と近代科学の比較」

2

医療実践における介入と再編

- 臓器移植
 - 臓器の提供
 - 「私の身体の中にある他者の身体」
 - 免疫学的他者、ドナー家族との社会関係、想像上の関係
- 研究用のがん細胞
 - 細胞の所有権(人格的關係)
 - 細胞が生み出す経済的価値
- 遺伝子診断、遺伝子治療
 - 遺伝子配列からみた「病気」
 - 発病以前の予防的介入
 - 特定の倫理的ふるまいの規範



3

医療実践における介入と再編

- 人工生殖医療
 - 精子・卵子の提供
 - 代理母／育ての母
 - 生物学的な父／育ての父
 - 「父親探し」
 - 妊娠の科学、画像診断、胎児の表象
 - 女性の権利と胎児の権利
- 終末期医療
 - バイタルサイン
 - 身体機能の低下
 - 無意識状態での「意思」「コミュニケーション」「人間性」
 - ケアの論理
 - 表情、身体接触、反射



4

外在化

- 身体の一部が、全体との関係性とは別に、外部との関係性をもつ(cf.産まれる前に社会的存在となる)
- 介入→外在化→関係づけ→再編(=翻訳のプロセス)
- 歪んだ経験

機械のメタファー

- 機械論的な身体観の一般的な理解
 - 部分と全体、機能の定義、還元主義
- 再編する機械？
 - 翻訳、経験の変化、関係性の変化、主体化、生成

5

他者としての身体

介入を契機とする経験の変化

(例)18世紀の女性の経験、診断記録(ドゥーデン 1993)

➢ 「血の滞り」、「不毛で役に立たないこぶ」...



- 画像診断、3D/4Dエコー(※動画)
- 新たな(予防的)介入の可能性
- 経験の共有、制度化、主体の分裂(対象の主体化)、問題の分節化、論争点の生成、複数の正当性、胎児の権利vs母親の権利...
- 「他者としての身体」(身体を他者として経験する)

※「こぶ」と「人間」の間にあるもの

= 感覚・経験の喪失、喪失したことの忘却(忘却の歴史)

6

身体の同時代的な他者性

患者の身体vs医者にとっての身体(cf. Mol 2003)

- 患者の身体経験:苦悩、苦痛、違和感、記憶、感覚、個人史、家族関係、社会関係...(と身体との関係)
- 医療者の経験:解剖、顕微鏡、検査装置、診察データ(統計、比較)、分類、治療的介入...(と身体との関係)

関係性の複数化、身体の複数化

- 「存在論は、モノの秩序において与えられるのではなく、複数の存在論が日々の社会的・物理的な実践のなかで生み出され、維持され、あるいは逆に失われていく」(Mol 2003: 6)
- 実践的な存在論(Mol 2003: 149-150)
~~実体としての身体への複数の見方~~
関わることによって現れる「身体」

■ 相対主義との関係

■ 多自然主義との関係(cf. ANT, perspectivism)

7

(参考)フーコーの存在論と真理論(『生政治の誕生』)

「いかなる干渉作用によって、一連の実践が(一つの真理の体制と連携させられて以来)次のことを可能にしたのか、すなわち、存在していないものが(狂気、病、非行性、セクシュアリティなどが)依然として存在しないままでありながら、それにもかかわらず何ものかになるということをも可能にしたのか」(p.25)

「一連の実践と真理の体制との連結が、実際に現実のなかで存在していないものをしてしづけてそれを真と偽の分割に正当に従わせるようなものとしての知と権力の装置をどのようにして形成するのかを示す」(p.25)

「...それらは、存在しない何かであるけれども、しかし、真と偽とを分割する真理の体制に属するものとして現実のなかに組み入れられている何か...」(p.26)

8

複数の「身体」からバロックへ

- 分節化した身体が制度化され、主体性を獲得すると、身体についての断片的な知識の集積は、身体理解に至らなくなる
(「複数の存在論」か「複数の真理論」か？ANTかフーコーか？)
- 周囲の環境を巻き込んだリアリティ
- 人とモノ特定の関係性(=ネットワーク)、布置
- 制度的な「権力」の捉えなおし(医者・患者関係、抑圧の装置、技術の介入)
- プロセスの種類、関係性の種類、視点、「切り出すことによって(再編され)現れる世界」=バロック

9

ロマン主義とバロック (Kwa 2002)

ロマン主義

- 多数として現れる個(individuals)は、高次にある単一の実在(single entity)へ統合される。個の集合体を高次の秩序をもった個体(有機体)へと読み替えていく。
- 個物と全体との対応関係
- 機械論的、還元主義的
- 抽象化、高次の法則、原理原則

バロック

- 対象を覗き込むことでさらに世界が広がりをもって見えてくる
- 切りだしたところに現れる世界・全体
- 視点のとり方やその方向性
- 対象への介入を契機として生成する世界の在り方
- 「思考する主体」を起点におかないような記述(cf. ドゥルーズ)

10

ロマン主義的全体: ルソー「第七の散歩」

Plus un contemplateur a l'âme sensible plus il se livre aux extases qu'excite en lui cet accord. Une rêverie douce et profonde s'empare alors de ses sens, et il se perd avec une délicieuse ivresse dans l'immensité de ce beau système avec lequel il se sent identifié. Alors tous les objets particuliers lui échappent ; il ne voit et ne sent rien que dans le tout. Il faut que quelque circonstance particulière resserre ses idées et circonscrive son imagination pour qu'il puisse observer par parties cet univers qu'il s'efforçait d'embrasser.

「静観する者がいっそう感じやすい魂をもっていれば、その人はいっそう深くこの諧調からわきあがってくる恍惚感に浸る。快く深い夢想がそのときかれの官能をとらえ、かれは甘美な陶酔を感じて、その広大な美しい体系のなかに消え失せ、それに同化した自分を感じる。そのとき個別的な対象はすべてかれの視界を去って、かれはすべてを全体のうちにおいて見、また感じる。」(ルソー 1960: 111)

11

バロック的全体性: ライプニッツ「モナドロジー」

Chaque portion de la matière peut être conçue comme un jardin plein de plantes, et comme un étang plein de poissons. Mais chaque rameau de la plante, chaque membre de l'animal, chaque goutte de ses humeurs est encore un tel jardin, ou un tel étang.

「物質のどの部分も、草木のおい茂った庭園か、魚のいっぱい泳いでいる池のようなものではあるまいか。しかも、その植物の一本の枝、その動物の一個の肢体、そこに流れている液体の、一滴のしたたりが、これまた同じような庭であり、池なのである。」(ライプニッツ 2005: 26-27)

12

バロックの身体論

制度的にマイナーな経験の数々を、それ自体固有の世界観と意味をもった実践として理解する

(例1) 移植患者が自己をめぐる混乱した語り

(例2) 胎児に人格を与える

- 何との関係で、どんな実践において意味が生じるか、そのプロセスを見る
- 介入と再編の形式: 情動・経験、その共有、制度化
- 記述しなければ医療実践の公の歴史から消えていく経験。非公式の経験 (cf. ドゥーデン)
- 描き出すことで、介入し、外在化し、再編する。

13

(参考) 終末期におけるいくつかの問題と関心

- 装置を介さない、外在化されない感性・情動
- 非公式の経験をもちいたコミュニケーションの成り立ち
- 記述的な介入の意味 (政治性)
- 法的制度的な整備 (政治的、経済的な背景) と、現場の実践
- 科学知識と個人的知識 (記憶、習慣...)
- プロセスの消失と意味の変化、機能の段階的低下、時間経過によるネットワークの切断プロセス)、「自然による介入?」
- 「人間」を前提としない、あるいは「人間」未満の存在 (物) の社会性

14

記述的介入とその問題点

- 身体的な情動、経験に基づく社会性 (生社会性)
- 記述的介入とその行為遂行性、再帰性
- 生社会性から政治的主体性へのプロセス (あるいは主体化の拒否へのプロセス)

(参考) 再びフーコーとの対比

- 身体の管理から「人口」の管理へ (統治性)
- 細分化され、対象化、外在化された身体の管理 (介入と再編の複雑な動きの管理)

15

おわりに (近代科学と在来知の比較研究のために)

「比較」の要素	
制度的経験	情動、非公式な経験
真理の体制、正当性	非正当性
科学的 (医学的) な介入	記述・発話による介入
逸脱、例外	特異性
主体化へ向かうプロセス	機能低下へ向かうプロセス
...	...

- 科学でもなく、在来していない、「知」?
- 制度的であり、かつ非正当的な知
- 正当性をもった複数の真理の体制
- プロセスの比較 (類型化)?
- 比較と接続 (介入・再編) ... 比較の行為遂行性、比較という実践
- 接続の可能性・傾向性・強度...

16

参考文献

- Boltanski, Luc, *La Condition foetale: Une sociologie de l'engendrement et de l'avortement*, Paris: Gallimard, 2004.
- ダニエルズ、ケン『家族をつくる—提供精子を使った人工授精で子どもを持った人たち』、仙波由加里訳、人間と歴史社、2010年。
- ドゥーデン、バーバラ『胎児へのまなざし—生命イデオロギーを読み解く』、田村雲供訳、阿叻社、一九九三年。
- Kwa, Chunglin, "Romantic and Baroque Conceptions of Complex Wholes in the Sciences," in J. Law and A. Mol eds. *Complexities: Social Studies of Knowledge Practices*, Durham, NC and London: Duke University Press, pp. 23-52, 2002.
- ライブニッツ『モナドロジー 形而上学叙説』、清水富雄、竹田篤司、飯塚勝久訳、中央公論新社、2005年。
- Mol, Annemarie, *The Body Multiple: Ontology in Medical Practice*, Durham: Duke University Press, 2003.
- Rabinow, Paul, "Artificiality and Enlightenment: from Sociobiology to Biosociality," in J. Crary and S. Kwinter (eds.) *Incorporations*, New York: Zone Books, pp. 234-252, 1992.
- Rabeharisoa, Vololona and Callon, Michel., *Le pouvoir des malades: L'association française contre les myopathies et la recherche*, Paris: Presses de l'Ecole des Mines de Paris, 1999.
- Rose, Nikolas *The Politics of Life Itself: Biomedicine, Power, and Subjectivity in the Twenty-first Century*, Princeton, N.J.: Princeton University Press, 2007.
- ルソー『孤独な散歩者の夢想』、今野一雄訳、岩波書店、1960年。
- スクルート、レベッカ『不死細胞ヒーラ ヘンリエッタ・ラックスの永遠なる人生』、中里京子訳、講談社、2011年。
- Viveiros de Castro, Eduardo, *Métaphysiques cannibals*, Paris: PUF, 2009.
- 山崎吾郎「臓器提供に現われる身体と人格：生経済における贈与論のために」『文化人類学』76(3): 308-329、2011年